

第41回定時総会議案

2006年度諸活動と2007年度活動方針案

1. 各院所の2006年度の活動のふりかえり

名南病院

- ①生活習慣病の取り組みとして、コメディカル（医師・看護師以外の薬剤師などの職種）による外来での療養指導を開始しました。病棟ではフットケア（糖尿病合併症の予防対策・糖尿病で足壊疽を引き起こさないための足の観察と手入れ）について学習し実践も行ってきました。理学療法士によるリハビリ体操（運動療法）も考案し行ってきました。
- ②名南病院連携室を設置し、法人院所間の連携を強化してきました。在院日数の管理など患者様が計画的な療養ができるよう努力しました。
- ③NST（栄養サポートチーム）の活動は、日本静脈経腸栄養学会から施設認定を受けました。
- ④愛知民医連研修医の受け入れでは、初期研修（2年目まで）では主に外科で、内科では後期研修（3年～5年目）を受け入れてきました。



連携室の活動のようす
奥井総看護課次長(右)と田淵連携室長(左)

中川診療所

- ①2006年度、中川診療所の活動の特徴は新型の超音波検査機を導入し、循環器疾患の診断力を高めたことです。9月に導入後321名の方に検査を施行させていただきました。痛みもまったく無く、20～30分で終了します。血圧やコレステロールが気になる方はぜひ職員までご相談ください。
- ②中川診療所は来年度、開設25年を迎えます。医療・介護の拠点として地域のみなさんと作り上げた歴史をさらに発展させるために、リニューアルの検討を開始すべき時期にきていると考えています。今年度はみなさんとともに夢を語り、明日の中川診療所づくりに繋げていきたいと思っています。



新しく2006年9月導入した超音波診断装置。検査を行う山口所長(右)と鈴木検査技師(左)

名南診療所

- ①2006年度から新たにできた体系としての「在宅療養支援診療所」の届出をし、約80人/月の在宅患者さんの管理をしてきました。在宅療養支援診療所は、住み慣れた地域住まい家族の下で療養しようとする患者さんをサポートするもので、関連医療機関はもちろんのこと介護保険事業所やケアマネジャーとも日常的に連携をとっています。
- ②地域の生活習慣病予防のため名南健康友の会と共同で「健康まつり」を開催し向かいの“どんぐり広場”で健康体操を行いました。

名南ふれあい病院・老健かたらいの里

- ①病院機能評価を受審し、プロジェクトを中心に各整備をすすめました。
- ②「もの忘れ外来」を6月に開設し、認知症の対応を強化しました。
- ③地域連携パスを中京病院・大同病院と行い、回復期リハの連携を強めました。
- ④「ふれあい健康フェスタ」や広報紙の発行など地域との交流を深めました。



在宅総合センターきずな

- ①介護保険改定にあたり、利用者の立場に立ち介護の継続に努めました。
- ②介護支援専門員の増員と研修をすすめ、在宅支援機能を強化しました。
- ③在宅運営委員会と介護支援専門員部会を隔月に開催し、在宅事業の前進をめざしました。

2. 2006年度さまざまな取り組みを共同組織とともにすすめました。

2006年度総会 会則変更

だれでも、いつでも友の会に！友の会づくりは、新たな段階へ。

6年ぶりの会則改正。世帯加入から個人加入へ、年会費を廃止

昨年4月に開催された2006年度総会では、会則の一部を改正しました。一点目は、加入方法を世帯加入から個人加入に変更したこと。予防接種や健康診断などを公費で利用できる条件が個々人の年齢で決められてきていることなどから、医療サービスの利用をきめこまかく紹介していくことに対応するものです。

二点目は、年会費の廃止です。これまで、友の会の会費は、『友の会ニュース』の発行に80%以上を使ってきましたが、昨年9月から、『友の会ニュース』を名南会の機関紙『めいなん』と合併発行となりました。

これによって、共同組織（社員さん・友の会会員さん）を構成する方々に、名南会の医療活動と友の会の活動の両方を紹介していく形に変更したこと。

また、友の会が取り組む様々な年間行事の収益によって、これまで同様の活動ができることから、会費の集金に使ってきた労力を個々の会員さんとのつながりを深める活動に移していき、さらにより気軽に入会を呼びかけられるようにしていくという考えから、年会費を廃止し、仲間ふやしの取り組みの条件を広げることとしました。



開会あいさつ（水野会長）



会場内のようす



大橋 路代さんの記念講演



瀬戸事務局員より提案説明

暮らしを守る取り組み

みんなで学んでみんなで行動

暮らしを守り、医療・介護・社会保障をよくしていく取り組みでは、『制度を学んで、広めよう』と2回の学習会を開催しました。

1回目は、『改定』された介護保険をテーマに、名南ふれあい病院西本事務局長を講師に『どうなる？どうする？介護保険』のタイトルで7月に開催。

2回目、は、愛知県社会保障協議会事務局長の加藤瑠美子さんを講師に、11月に医療・介護・福祉をめぐる最新の状況を学習しました。

国保料の集団減免運動では、今年は、友の会も含め、地域の6団体で『減免』の会（略称）を結成して臨みました。

今回の交渉では、住民税の引き上げ直後という状況もあり、南区役所の会場一杯の参加者となり、保険料・窓口負担金の両方で、負担を軽減する措置の宣伝・活用をすすめる答弁を得るなどの成果がありました。

また、この取り組みについては、愛知民医連の学術集談会（11月）や、全日本民医連の共同組織活動交流集会（2月）にも発表しました。



名南ふれあい病院西本事務局長 講演



加藤瑠美子さん 講演



国保減免交渉



講演を聞き入るみなさん

楽しい行楽企画

会員さん、地域のみなさんと力を合わせて

今年の春と秋の行楽（日帰りバス旅行）では、5月に伊賀の『モクモクファーム』へ、11月には、『鳳来寺山参詣とゆーゆーありいな』へ。

新年恒例となった『大須観音初詣と大須演芸場初笑い』では、満席の賑わいになりました。また、6月には、『ふれあい健康フェスタ』に友の会も職員に加わって取り組みました。

地域の諸団体で共催した『いきいきフェスティバル』（5月・10月）では、健康チェックコーナー（職員）と『焼餅』（会員さん）で参加しました。

夏の『盆踊り大会』では、道德公園会場で約3,000人、波花公園（中川診地域）では、約2,000人の地域のみなさんが来場、友の会も健康チェックコーナーとあわせて、焼餅や焼きそばを出店しました。



春の行楽『モクモクファーム』



秋の行楽『八丁味噌 角久』見学



大須演芸場『初笑い』



ふれあい健康フェスタ



『いきいきフェスティバル』



夏の『盆踊り大会』

平和を守る取り組み

『平和行進』今年も歩きました。『九条の会』も結成

炎天となった6月4日、今年も歩きました。『平和行進』、南生協からの参加者に合流。名南病院から『七里の渡し』のコース、200名をこえる行進で、沿道に訴えました。

今年2月には、約一年間の準備を経て、『道德・豊田九条の会』の結成総会が開かれました。友の会も賛同団体として参加しています。



国民平和行進



『9条の会めいなん』を持って行進



道德・豊田九条の会結成総会



村松 寿人さん（名古屋三菱朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会）

医療法人名南会の今後の立場と課題及び総合計画づくりについて

2006年12月27日 医療法人名南会第7回常任理事会

2006.4.1 診療報酬改定、今後の医療構造改革路線、(第5次) 医療法改定(さらに医療機能の分化と地域連携がすすむ)を見据え、医療法人名南会常任理事会では、「医療法人名南会の今後の立場と課題及び今後の総合計画づくりについて」論議決定しました。名南会社員・協同基金会員、健康友の会をはじめとした名南会を支える共同組織の方々、全職員、名南会労働組合に対して、積極的な論議と検討をお願いします。

(今後の総合計画づくりにおける、わたしたちの立場と重点課題)

1. 医療構造改革の全体像への認識を深め、医療構造改革路線に立ち向かう「変革の構えとビジョン・戦略の再構築」を行います。
※医療構造改革とは；
医療保険制度、医療提供体制、診療報酬制度など医療制度全般にわたる大規模で包括的・中長期的な医療給付費削減改革(2025年度までに8兆円削減)。
2. 医療給付費抑制を目的とする「医療構造改革」のもとで進行する、地域住民の医療・福祉削減、受療権(生活権・人権)の侵害、格差と貧困の拡大に対して、名南会は「差額ベッド」のない、混合診療を許さない民医連の立場を堅持し、無差別・平等の医療実践を強めながら、今後の名南会の医療・介護・福祉の方向性を創り出します。
3. 全日本民医連第37回運動方針「民医連の中小病院の存在意義と使命について」では、今後の方向として、①地域連携の重視、地域分析による役割の明確化、②得意分野や特徴の打ち出し、③共同組織参加を生かした職員育成、④医師集団の技術獲得とモチベーションの維持、を上げています。この点に学び、名南病院について、医師・看護師不足への対応と養成、医療(外来)機能、医療の質・技術獲得、病床規模と病床の転換を含めた今後の方向性について決定します。
4. 地域医療と高齢者の受療権を守るために、療養病床の機能と発展、具体的には、名南ふれあい病院介護療養病床の転換(2012年)、在宅医療を重視した新たなネットワークの構築について今後の方向性を打ち出します。
5. 以上の4点をもとに、経営理念と経営戦略づくり(ビジョン、ポジショニング)、安心して暮らせるまちづくりのための共同組織づくりの課題(2万人の友の会づくりと医療・介護・社会保障・暮らしを守る運動の推進)と合わせて、今後の地域での共同・連携、事業拡大の可能性の検討をすすめます。



(名南病院の課題について)

- ①今年度4月には、辻村医師の中期研修からの帰任と高木万紀子医師の赴任により、名南病院の医療活動の拡大が期待されます。特に、糖尿病を中心とした生活習慣病管理の充実(糖尿病の専門医師が毎日診療を担当する体制や療養指導の強化)、内視鏡検査の充実などを実現していきます。新たな設備投資も検討し、名南病院の医療水準の向上、活性化を目指します。
- ②今年度は引き続き、10:1看護基準による・120床3病棟運営とします。また、亜急性期入院医療管理料10床程度を導入し、地域の要求に応え、長期に入院を必要とする一定の患者さんの受け入れについての役割を担っていきます。
- ③臨床研修病院管理型を取得、病院機能評価受診をめざします。
- ④今年度4月より、夜診1単位を廃止し、月・水・金夜診に変更させていただきます。午後の時間帯を積極的に活用し、生活習慣病への対応など重点とする医療活動を積極的に拡大していく条件づくりを行います。患者さんには、ご不便をおかけしますが、予約制の徹底をはじめ親切丁寧な対応に心がけ、患者サービスの向上に努力します。また、医師・看護師の労働負担の軽減をはかり、医療の安全性に一層努力します。
- ⑤今年4月より、医師、看護師体制の厳しさにより、夜間20時30分から翌8時30分までの救急外来を休止させていただきます。愛知県救急医療情報センター、近隣の医療機関等をご案内させていただきます。

(高齢者医療を担うネットワーク、地域連携を強化する課題について)

- ①名南ふれあい病院・介護療養病床については法により2012年廃止がすでに決定しており、病床の転換が必要となります。名南会としては、地域の要求から見ても、平均在院日数が問われない重介護者対応の病棟機能を継続していくことが必要と考えます。看護職員の配置可能数により、医療療養病床・老人保健施設・有料老人ホームのいずれかを選択し病床転換を行います。
- ②地域の高齢者医療を担い、高齢者の急性期、生活習慣病管理を得意分野とする名南会の連携の中で、名南ふれあい病院は(内部、外部の)連携の要としての役割、機能をさらに発揮していきます。
- ③名南診療所(在宅療養支援診療所)の役割強化、連携の強化をはかります。また、法人として、在宅支援機能をさらに充実させます。
- ④介護分野について、人材確保・定着と職員のキャリア・スキルアップを今後の最重点課題としていきます。
- ⑤社員、協同基金協力者、友の会など共同組織の方々に依拠し、共同した介護事業、共同のまちづくりのとりくみを今後重視します。地域との交流スペース、たまり場づくりを模索します。



医療法人名南会 2007年度方針(案)

情勢とわれわれの基本的立場

現在、格差社会は進行し、国民生活は重大な危機に直面しています。医療法改悪、老人医療費の原則1割負担導入、介護保険改悪による施設入居者の食事・居住費の全額自己負担など、高齢者は、医療や介護からますます遠ざけられています。地域で健康に暮らしていくこと、病気になったときの受療権が脅かされ続けています。国保滞納世帯は、470万人(加入世帯の2割)に及び、短期保険証は100万世帯、資格証明書世帯も30万世帯で、名古屋市もこの3月に681世帯に対して資格証明書を発行しました。生活保護世帯は、2005年度初めて100万世帯を超え、国民の90人に1人が生活保護受給者と言われています。経済苦による自殺者は年間3万人となっています。

療養病床は、医療療養病床25万床を15万床に削減し、2012年には介護療養病床を廃止し、合わせて23万床の削減・転換計画が明らかにされています。高齢者は、税制の改悪で、住民税・国保料・介護保険料が大幅に引き上げられ、生活そのものも破壊されています。さらに、今後、健診事業を従来の疾病の早期発見から、医療費の削減のための「生活習慣病の予防」に変えてしまおうとの計画もすすめられています。高齢者医療を重点とした医療や介護をすすめる、健診など地域での健康づくりをすすめる名南会にとっても今後も厳しい情勢にあります。医療・福祉の危機、国民や地域住民の困難と民医連内部に起きている経営困難との困難の根は同じです。

私たちは、地域に根ざし、社会の中で困難な立場にいる人びとに寄り添い、共感し、決してあきらめずに変革の立場で、困難な人たちの最後のよりどころの事業所として自ら無差別・平等の医療・介護を実践します。そして、平和・医療・人権を守るための政治の役割を重視し、いのちの平等を実現するために政治に働きかけること、地域での共同組織づくりをすすめます。名南会の優位性は、名古屋でも有数の高齢者、在宅医療重視、医療・介護連携を重視した法人内ネットワークを擁する事業体系であること、そしてそれらを支える共同組織の存在です。「無差別平等の医療・介護・福祉」の理念・やりがいで一致する職員集団として、民医連らしい医療活動、すなわち保険予防、医療・介護・まちづくりの総合的課題の推進、人権を重視した共同の営み、共同組織との結びつきなど、組織の優位性を発揮して、今後の展望をきりひらきます。

室料差額(ベッド料金)徴収を行わない名南会の立場について

2007年2月28日開催の法人常任理事会において、「医療法人名南会は『室料差額』(差額ベッド料)はいただきません」文書を確認しました。これは、「差額ベッド」のない・混合診療を許さない民医連病院の優位性と存在意義をあらためて確認し、地域住民、共同組織と協力・共同して経営を守り発展させる私たちの今後の経営姿勢を表明したものです。地域では、私たち民医連の立場や方針について共感や支持がひろがっています。室料差額徴収反対は、①「格差と貧困」に立ち向かう民医連病院の基本的立場であり、②医療にお金のあるなしで差別を持ち込むことであり断じて容認できない。③それは民医連運動(綱領)を具体的に体現する象徴であり、地域社会、職員、共同組織への公約であり、職員の誇りでもあること、④困難な民医連事業を地域で支える原動力となるもの、以上から、今後も「医療法人名南会は『室料差額』(差額ベッド料)はいただきません」の立場を堅持します。

2007年度、名南会の6つの重点課題方針

① 私たちは、地域住民の医療・介護を受ける権利を守り抜きます。そして、平和・人権・いのちの平等が守られる社会づくりをすすめます。共同組織とともに育ちあう職場づくりをすすながら、あらゆる活動を共同組織とともにすすめます。

② 名南会は、地域に密着した医療・介護・福祉活動と切れ目のない「地域連携」の要となる組織の役割を果たしていきます。

③ 全職員で、人権を守り、安全・安心・信頼の医療・介護の実践をすすめます。



④ 院所管理会議、院長機能を重視し、権限と責任を明確にした運営により管理力量を向上させ、方針の実践力を高めます。民主的で質の高い管理運営を通じて、地域の期待に応える民医連運動の推進、安全で質の高い医療介護を実践します。

⑤ 名南会の今後の将来展望を支え、民医連を担う職員確保と育成をすすめます。

⑥ 相次ぐ診療報酬引き下げ、医療・介護の制度改悪に負けない、中長期の経営計画にもとづき、単年度の経営目標(減価償却費・繰延資産償却費と純利益の合計額)を確実に達成するための、方針づくりと実践強化を行います。

各院所の2007年度の具体的目標について

(1) 名南病院

- 生活習慣病の取り組みをすすめます。糖尿病を専門とする医師がどの診療時間帯でも担当する充実した体制を生かします。療養支援、運動療法(リハビリ体操)など患者さまの療養生活を援助する活動を行います。検査予約枠を増やした条件を生かし内視鏡検査を増やし、ガンの早期発見・早期治療に結びつけます。
- 名南ふれあい病院、名南介護老健かたらいの里、診療所、在宅、地域の医療機関との連携をすすめる、高齢者の急性期への対応を引き続き行い、その役割を果たしていきます。
- 管理型臨床研修病院を取得し、研修受け入れ医療機関としてその整備をすすめます。
- 健診活動を着実に前進させ患者件数の確保に努めていきます。
- 亜急性期病床を導入し、より計画的な病棟運営を図っていきます。
- 学習と地域の方とともに活動することを重点に、組織活動への全職員の参加を追究していきます。

(2) 診療所

- 中川診療所
- 慢性疾患管理の一環として名古屋市セット健診をすべての慢性疾患患者さまに勧めます。
 - 名南ふれあい病院検査科の協力を得て、頸部・心臓・腹部の超音波検査を積極的に取り組みます。
 - 共同組織とともに地域で「介護を考える」会を立ち上げます。
 - 共同組織とともに夢を語り合い、中川診療所のリニューアルを検討します。
- 名南診療所
- 在宅医療のかねめである「在宅療養支援診療所」としての医療活動を確立し、名南会や他医院・事業所と連携して在宅医療を強化していきます。
 - 健康スポーツ医、呼吸器内視鏡指導医、家庭医療指導医、産業医、認知症登録かかりつけ医、日本ウォーキング協会指導委員などの資格を活用し、生活習慣病予防から高齢者医療まで幅広い地域のニーズにこたえていきます。
 - 楽しく家庭的なデイケア(通所リハビリ)や相談できる居宅介護支援事業所など、介護保険事業も充実させていきます。
 - 名南健康友の会の健康づくり運動と家庭医かかりつけ医としての機能を発展し、友の会とも共同して地域の健康づくりをすすめていきます。医療介護の相談や「なんでも相談」活動を展開し、安心して住みつけられるまちづくりを地域と共にすすめていきます。

(3) 名南ふれあい病院、名南介護老健かたらいの里

- 職員の教育研修を重視し学びあい、育ちあう職場づくりをすすめます。
- 病院機能評価受審の経験を踏まえ、管理運営の改善をはかります。
- リハビリ機能の向上をはかり、在宅復帰・支援をすすめます。
- 「もの忘れ外来」や老健認知症専門棟をはじめ、施設全体で認知症対応を強めます。

(4) 在宅総合センターきずな

- 在宅における「尊厳ある生活支援」のため、連携の要として役割を高めます。
- 医療との連携による中重度者への対応、介護の質向上・安全性の追及を行います。
- 基準に沿った運営に努め、業務整備をすすめます。